

事業報告

三大学学生会議

平成21年12月8日16時～19時20分、徳島文理大学臨床工学科の1年生が香川大学、香川県立保健医療大学の学生達に呼び掛け、今後の活動などについて話し合いました。臨床工学科の学生たちは、自分たちが学んでいる模擬手術室の設備や人工透析、人工心肺などの機器類を他大学の学生達(医学科、看護学科など)に紹介し、チーム医療の中での臨床工学技士の役割を説明しました。



模擬手術室の見学



臨床工学技士の役割説明

3大学の学生代表挨拶

徳島文理大学・香川大学・香川県立保健医療大学



この日は徳島文理大学のイルミネーション点灯の日。説明が終わる頃、ちょうど初冬の短い日が落ち、無数のイルミネーションが快晴の夜空を飾っていました。授業等で遅れて駆け付けた学生達が揃ったところで食堂に移り、3大学の学生達が今後の活動について話し合いました。

徳島文理大学 桐野豊学長、香川大学 上田夏生副医学部長(本事業推進委員長)にご挨拶をいただいたあと、各大学の学生代表がこれからの抱負を述べました。その後学生たちは、自由に発言し連帯の輪を強めるとともにメールアドレスを交換するなど連絡体制を築きました。



イルミネーション点灯

参加者 42名(内訳:徳島文理大学17名、香川大学15名、香川県立保健医療大学10名)

今後の予定

香川大学医学部認定看護師教育支援室 認定看護師(緩和ケア)研修生募集

教育期間…平成22年9月1日(水)～平成23年2月28日(月)

定員…15名

出願期間…平成22年4月12日(月)～4月26日(月)必着

選抜試験日…平成22年5月22日(土)

出願資格…次の1～5の要件を全て満たしていることが必要です。

1. 日本国の保健師、助産師及び看護師のいずれかの免許を有すること。
2. 1の免許取得後、通算5年(60か月以上)の実務経験があること。
3. 緩和ケアを必要とする患者及びがん終末期の患者が多い病棟、又は在宅ケア領域で、通算3年以上(36か月以上)の看護の実績を有すること。
4. がん終末期の患者の看護を、積極的に治療が行われてから死に至るまでを通して5例以上担当した実績を有すること。
5. 現在、がん患者の多い施設又は在宅領域で勤務していることが望ましい。

〈問い合わせ先〉

香川大学医学部 認定看護師教育支援室
〒761-0793

香川県木田郡三木町池戸1750-1

TEL:087-891-2344

E-mail:mdkango1@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

URL: http://www.kms.ac.jp/

文部科学省 戦略的大学連携支援事業

香川総合医療教育研究コンソーシアム

(徳島文理大学・香川大学医学部・香川県立保健医療大学)

<http://kp.bunri-u.ac.jp/renkei/>

文部科学省 戦略的大学連携支援事業

香川総合医療教育研究コンソーシアム ニュースレター 第4号

第2回フォーラム・学術交流会・評価委員会を開催

平成21年12月17日、サンポートホール高松にて文部科学省 戦略的大学連携支援事業「香川総合医療教育研究コンソーシアム」の第2回フォーラムを開催しました(参加者168名)。本フォーラムは平成20年度に採択された「香川県内の医療系学部を有する3大学連携事業」の平成21年度の活動を報告したものです。

学術交流会



フォーラム行事の一環として、3大学学術交流会を開催しました(参加者108名)。

本交流会は異職種の研究内容をお互いに発表し合い、本事業の目的である「チーム医療」の実践に必要な各職種の人々の「ものの考え方」を理解したり、分野の異なる方々との共同研究を促進するためのきっかけを作ろうとするものです。今回は3大学の教員から8件の研究発表が行われました。

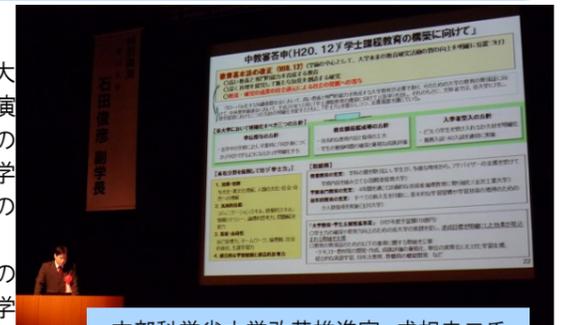
参加者からは「同じ医療の世界にいながら他職種のことを十分知らなかった。非常にためになった」との声が多く寄せられました。

第2回フォーラム

事業統括である徳島文理大学 桐野豊学長の挨拶の後、文部科学省大学改革推進室係長 成相圭二氏より「大学間連携の推進状況」の特別講演をいただきました。成相氏は、大学間の連携ならびに大学と地方自治体との連携の必要性について強く訴えられました。次に香川大学 石田俊彦副学長・理事より「地域に密着したチーム医療の必要性和医療情報ネットワークの整備」について特別講演が行われました。

続いて事業推進委員長である香川大学 上田夏生副医学部長から今年度の取組状況について事業報告が行われ、3大学学生代表として香川大学医学部の4年生から学生間交流報告や今後の抱負が述べられました。また、3大学間での遠隔講義の現状報告や緩和ケア認定看護師教育課程の報告、「電子処方箋」の説明とデモンストレーション等が行われました。

本フォーラムの様子は、遠隔講義システムを用いてリアルタイムに3大学へ配信し、会場に向くことができない教職員や学生達が視聴しました。また会場ロビーでは、学生や教職員の調査・研究を掲示したポスター展や電子処方箋、糖尿病地域連携クリティカルパス、手術の3D映像伝送などのデモンストレーションコーナーを併設しました。



文部科学省大学改革推進室 成相圭二氏

評価委員会



フォーラム終了後、本コンソーシアム評価委員会を開催しました。

評価委員として、地元医療関係団体、香川県、近郊大学の医療系学部、連携3大学から計16名に出席いただき、事業実施側として事業統括ほか計6名が出席しました。

内容は「文部科学省に提出している平成21年度の計画を滞りなく進めているか」であり、各計画に対する実施状況の資料やフォーラムの発表内容などをもとに評価をしていただきました。

その結果、各評価委員から「計画を滞りなく進めている」との評価をいただき、同時に「共同大学院や電子処方箋の実現は難しいものであり、単年度だけでなく実現までのマイルストーンを明確にして進めるように」等の激励をいただきました。

事業報告

手術室見学・解剖実習見学

徳島文理大学工学部臨床工学科の3年生が香川大学医学部附属病院手術を見学

平成21年9月28日から11月18日の間、毎週月曜日と水曜日の14回、3年生27名が2名ずつに分かれて先輩臨床工学技士が勤務する手術室の実際を学びました。

医療の現場に入ることから、患者さんのプライバシー保護や衛生面などについて、しっかりと学んでおく必要があり、事前に香川大学医学部附属病院 臼杵尚志手術部長をお招きして、これらを学習した上で見学を実施しました。普段自由な学園生活を送っている学生たちです

が、この日は医療の最前線に立ち入ることを意識して、きちんとした服装と礼儀正しい態度に努めていました。



手術室

MEセンター

見学を終えた学生たちの感想・感謝の声

- ・手術室でチーム医療が認識できた。特に1人の患者さんのために多くの医療スタッフの方々が働いていたことが印象的だった。
- ・実際の心臓手術はリアルだった。
- ・座学でよく分からないことが理解できた。
- ・医療従事者の方々が親切に説明して頂いたことで、難しい症例や手術方法などがよく理解できた。 など



臼杵先生の特別講義の様子

徳島文理大学香川薬学部・工学部臨床工学科の学生が香川大学医学部系統解剖実習見学に参加

平成21年12月16日、香川大学医学部神経機能形態学にて、徳島文理大学香川薬学部と工学部臨床工学科の学生13名が系統解剖実習見学に参加しました。

参加するにあたり、ご遺体やご遺族に感謝し、一つでも多くのことを得ようとする気持ちが重要です。事前に「解剖学の復習」や「解剖実習への心構え」について学習を行った上で見学に参加しました。また事後学習として、見学で学んだことを整理・共有するため、学生同士のディスカッションを行いました。一人の人間の身体と向き合うことで、人体の構造や機能について知識を深めることは勿論、「献体の心」を通して生命倫理や学生としての責務について、大きなことを学び・実感することができました。



解剖実習を終えて

実習見学に参加した学生たちの感想・感謝の声

- ・一つ一つの臓器のつながりを観察し、触れることで、「学び」が「実感」となった。
- ・実際に触れ、学ばせて頂いたことは、献体して下さいたご本人やご遺族をはじめ、多くの方々の協力があってこそできたことであり、参加させて頂いた学生として、この好意を無駄にしないよう、今後の学習へ結び付けていきたい。 など

連携大学祭（医学部祭で医学展へ参加）



ポスター展示

薬草茶体験コーナー

平成21年10月10日・11日、香川大学医学部祭が開催されました。

今年は香川大学医学部祭の医学展を3大学の学生が合同で開催・運営しました。準備のために学生達が幾度も会議を持つなど、チーム医療のベースとなる連帯を深めました。会議には遠隔講義システムを利用するなど場所や時間の工夫もみられました。

医学展では、来訪者の健康チェック（骨密度測定、血圧測定、手洗い体験、視力検査など）を行いました。また、徳島文理大学香川薬学部の学生が薬草茶の体験コーナーを開設しました。

併せて、学生たちが調査・研究した内容のポスター展示も行い、この展示にも香川県立保健医療大学、徳島文理大

学の学生によるポスターが加わりました。

今回は初の試みであり、戸惑いや細かい改善点などがあったものの大成功に終わり、学生達も達成感に浸っていました。薬草茶の体験コーナーには2日間で180名ほどの訪問があり、学生に健康相談を持ちかける方もいて、学生から「薬局でのお客様対応などの良い勉強になった」との声も聞かれました。



医学部祭の様子

健康チェックの様子

特別講義遠隔配信

香川県立保健医療大学で行われた講義を、遠隔講義システムを使用し徳島文理大学・香川大学医学部へ同時配信しました。リアルタイム双方向通信により、各大学の学生は所属する大学で聴講・質疑応答を行いました。

香川県立保健医療大学「専門看護師特別講義」を香川大学医学部、徳島文理大学へ遠隔配信

患者中心のチーム医療における看護専門職の役割 ー専門看護師の実際の活動から学ぶー

第1回 平成21年10月 9日 講師:滋賀県 長浜赤十字病院 老人看護専門看護師 藤田 冬子 氏

第2回 平成21年10月29日 講師:香川県 いわき病院 精神看護専門看護師 土岐 弘美 氏



<第1回>

「老人看護専門看護師」の藤田冬子 氏をお招きし特別講義が行われました。講義内容は、「今日のチーム医療の必要性」、「専門看護師とは何か」、「老人看護専門看護師の実際の活動内容」など、幅広い視点から実際の看護活動を紹介して頂きました。特に、病院内での高齢者患者の健康問題(高齢者の栄養障害、嚥下困難、褥瘡対策、認知症、退院調整、専門外来など)について組織的に問題解決できるように、プロジェクトチームやシステムを立ち上げて、コンサルテーション活動を行いながら、チーム医療の質の向上に貢献している姿が印象的でした。

<第2回>

「精神看護専門看護師」の土岐弘美 氏をお招きし特別講義が行われました。今回は、10月9日に行われた「老人看護専門看護師の活動」に続くものであり、3大学と県内の医療機関より178名の参加がありました。

講義内容は、「チーム医療を展開する時に生じる葛藤」「効果的なチーム医療を展開するために」「専門看護師に必要な姿勢と能力」「活動の実際」など、専門的な視点から講義を行って頂きました。情熱を持ちながらも力むことなく、チーム医療の質の向上に貢献する精神看護専門看護師のパワーを感じさせられた講義でした。



香川県立保健医療大学「薬理学」特別講義を香川大学医学部、徳島文理大学へ遠隔配信

「薬が患者さんにとどくまで 臨床薬理学が教えるもの」

日時:平成21年12月 7日

講師:琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学 植田 真一郎 教授

司会:香川大学医学部 薬理学講座 西山 成 教授

香川県立保健医療大学「薬理学」授業において、「薬剤の大規模臨床試験研究」でご高名な植田真一郎先生をお招きし、特別講義が行われました。

講義内容は、「基礎的な生命科学研究を経て、薬剤が開発され、有効性と安全性が証明されて患者さんに届くまでにはたくさんの研究が必要であること」、「臨床薬理学は臨床研究の一端を担い、基礎的な研究からヒトの研究への橋渡し、有効性や安全性の証明、ベッドサイドや外来での薬剤の投与設計などに貢献していること」などについて述べられ、わかりやすい臨床薬理学の講義を行って頂きました。また、先生は学生達に臨床研究コーディネーターを目指すよう熱く呼びかけられました。

